

最近の主な検討会等における看護基礎教育に関する提言

■ 新たな看護のあり方に関する検討会報告書（抜粋）

（平成15年3月）

1. 患者の生活の質の向上のための専門性の高い看護判断と看護技術の提供に向けて

（3）望ましい看護のあり方の普及に向けて

看護師等が、こうした要請に応え、その役割と責任を果たしていくためには、今後ますます、看護師等の判断力や責任能力を向上するとともに、更には、豊かな人間性や人権を尊重する意識の涵養、コミュニケーション能力の向上が求められており、看護師等の養成のあり方についての様々な課題に取り組んでいく必要がある。

また、看護師等として学ぶべき知識・技術の増大とあわせて、看護師の資質の向上が求められていることから、看護基礎教育の内容を充実するとともに、大学教育の拡大など看護基礎教育の期間を延長していくことも検討していく必要がある。

■ 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書

（抜粋）

（平成15年3月）

1. 看護基礎教育における技術教育の現状と課題

近年の臨床看護の場では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮等により、看護業務が多様化・複雑化し、密度が高くなってきている。また、患者の人権への配慮や、医療安全確保のための取り組みが強化される中で、看護師になるための学習途上にある学生が行う看護技術実習の範囲や機会が限定されてきている。

このような状況の中、看護師学校養成所における看護技術に関する教育の内容や卒業時点での到達目標は、個々の看護師学校養成所ごとにかなり異なっており、卒業直後の看護師の技術能力にも格差が生じている実情にある。

さらに、卒業直後の看護師の技術能力と臨床現場が期待している能力との間の乖離が大きくなってきており、安全で適切な看護・医療の提供への影響も懸念されてきている。

2. 臨地実習において学生が行う基本的な看護技術の考え方

- 水準1 教員や看護師の助言・指導により学生が単独で実施できるもの
実施しようとする技術が特定の患者の状態に適していると教員や看護師により認められたものであれば、患者・家族の承諾を得て、学生が主体となり単独で実施できるもの。
- 水準2 教員や看護師の指導・監視のもとで実施できるもの
患者・家族の承諾を得て教員や看護師の指導・監視のもとで学生が実施できるもの。
- 水準3 原則として看護師や医師の実施を見学するもの
原則として学生には実施させない。ただし、看護師や教員又は医師の指導・監視のもとで患者の身体に直接触れない範囲で介助を行うことは差し支えない。

■ 医療提供体制の改革のビジョン（抜粋）

（平成15年8月）

IV 医療を担う人材の確保と資質の向上

（3）時代の要請に応じた看護の在り方の見直しと資質の向上

- ② 看護師等の卒前の技術教育が適切に推進できるよう、臨地実習の実施のための条件整備を行い、その定着を図る。また、医療の高度化・専門化に対応するため、特定の領域について、より高度な知識・技術を有する看護師（専門看護師等）の養成強化や普及を推進する。さらに、看護基礎教育の内容を充実するとともに、大学教育の拡大など、看護基礎教育の期間の延長や卒後の臨床研修の在り方について制度化を含めた検討を行う。

■ 新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書（抜粋）
（平成16年3月）

第一部 新人看護職員をめぐる現状と課題

Ⅲ 看護基礎教育の現状と課題

1 看護基礎教育の課題とこれまでの取組

指導要領においては細部まで規定しておらず、看護基礎教育卒業時の看護実践能力の具体的な到達目標は、各学校養成所が設定しているため、看護技術の到達度には差異が生じていると指摘されている。

また、看護基礎教育では医療機関における医療安全管理体制の強化や患者及び家族の意識の変化等により、従来、患者を対象として実施されてきた看護技術の訓練の範囲や機会が限定される傾向にある。

2 看護基礎教育における臨地実習の現状と課題

多くの学校養成所において臨地実習で採られている教育方法は、学生が一人の患者を受け持ち、その患者及び家族と関わりながら、看護ニーズを判断し、看護ケアを計画、実践し、評価するものである。そのため、チームメンバーの一員として、臨床現場の多重課題の優先度を考えながら時間内に業務を実施するなどの能力を、基礎教育の中で身につけることは極めて困難である。

おわりに

さらに、関連して、看護基礎教育における臨床実践能力の向上に向けた教育の強化と教育期間の延長などの課題もある。

■ 医療安全の確保に向けた保健師助産師看護師法等のあり方に関する
検討会まとめ（抜粋）
（平成17年11月）

II 個別の論点

2. 新人看護職員研修

(2) 新人に看護職員研修の制度化の必要性と課題

新人看護職員の能力や技術は、現在の学校・養成所のあり方やカリキュラムと大きく関係している。技術教育の強化、臨床実習の条件整備だけでなく、医療安全の観点から、平行して基礎教育を充実させることも課題である。

■ 第六次看護職員需給見通しに関する検討会報告書（抜粋）

（平成17年12月）

3. 新たな看護職員需給見通しについて

(3) 課題

② 看護職員確保対策について

需給見通しにおいて新卒就業者数は微増となっているが、今後、少子社会が続くことをふまえると、看護師学校養成所における学生を確保することが重要であり、啓発普及などにより看護の魅力や重要性を積極的に若年層に伝える必要がある。また、新人看護職員の離職が多いことが指摘されており、離職を防止し定着を図る観点から、基礎教育の充実及び新人看護職員研修のあり方について検討する必要がある。